

## 電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	情報通信工学特別実験第二		
英文授業科目名	Advanced Laboratory in Information and Communication Engineering 2		
開講年度	2009年度	開講年次	
開講学期	通年	開講コース・課程	博士後期課程
授業の方法	実験	単位数	6
科目区分	電気通信学研究科-情報通信工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報通信工学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
西野 哲朗 田口 聡	なし

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>情報通信工学の各専門分野における第一線の技術者・研究者となるための実践的技術力を獲得するために、情報通信工学特別実験第一からさらに進んだ内容について、課題に即した処理システム、実験システム、装置の具体的設計、製作、試行・実験を経験する。</p> <p>情報通信工学特別輪講第二、情報通信工学特別演習第二と併行して情報通信工学特別実験第二を実施し、調査・立案・遂行・評価能力ならびに発表・討論能力を駆使し情報通信工学研究の実践的技術力を会得する。</p> <p>情報通信工学特別実験第二の遂行に当たっては研究室、研究グループ内で、進捗状況、発生した新たな課題などを発表討論し、課題解決のためのより合理的な付加価値の高い手法の開発に務める。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
<p>[参考書] 情報通信工学に関する国内外の学会誌、論文誌に掲載された研究論文、国際会議プロシーディング、国内外専門書、実験装置マニュアルなどを適宜用いる。</p>

【授業内容とその進め方】

(a) 内容

自らの課題に即した処理システム、実験システム、装置の具体的設計、製作、試行・実験を経験する。報告書を提出するとともに得られた結果を発表・討論する。

(b) 進め方

実験の実施の最小単位である各研究室において指導教員の直接の指導のもと進められる。また、より広い専門的視野を身につけるように、専攻内を4グループに分け、グループ間の連携を考慮した輪講も行う。

(c) 授業時間以外の学習

発表・討論の前に十分な時間をかけて内容を理解しておく必要がある。また、発表・討論を通して理解を深めた事柄については、実験の次のステップで活かすべく整理しておくこと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

自らが課題としたテーマに関する処理システム、実験システム、装置の具体的設計、製作、試行・実験結果に関して、

- (1) 実験中における教員からの試問に対して正しく答えられているか
- (2) 報告書の内容が十分かどうか

が評価基準である。実験を担当する教員のグループ群により評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

各指導教員が設定する。

【学生へのメッセージ】

今までは先人が築いた情報通信工学に関する学問を学んで来たわけであるが、今後は皆さんが情報通信工学の分野に1ページを書き加える番である。このためには設定された具体的課題を、自ら具体的に解決してゆく過程を経験を積むことが必要である。

【その他】

年度始めに指導教員と議論して策定した「研究指導計画書」を意識し、必要に応じて更新しつつ、進捗状況を自ら把握しながら研究を進めることを推奨する。